

【仲間と学ぶ宿泊体験教室】

仲間と学ぶ宿泊体験教室

下関市立山の田小学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：28学級
- 児童数：812人
- 教職員数：51人
- 活動の対象学年：5年生136人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 山口県の西端、関門海峡に面する下関市（人口約30万人）の西方にある。
- 周辺は住宅地及び商業地。JR山陽本線とJR山陰線の合流地で交通量も多く、大学・高等学校等多くの学校が近くにある文教地区でもある。
- 校区のほとんどが開発され、本来の自然の姿を間近に見ることはできない。わずかに残る畑と点在する公園、街路樹そして、学校や各住宅の樹木、花壇が日頃、接する自然であり、自然に接する機会が非常に少ない地域であると言える。
- ここ数年来、交通渋滞の解消のため道路の拡張・バイパス工事が進み、残された自然は、更に少なくなる傾向にある。
- 一部響灘に面し、海岸を持つが遊泳・立ち入り禁止となっており、かつて、ワースト河川と言われた武久川の河口付近に位置している。近年、川の汚れは、改善されてきたが体験活動の場となりにくい面がある。

③ 連絡先

- 〒751-0837  
下関市山の田中央町13番1号
- 電話：083(252)3735
- FAX：083(252)3745
- 電子メール：yamanota-shou@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 自然に関わる宿泊体験活動
  - ・ 宿泊を伴う共同生活をおくる体験で、友達同士が力を合わせ、支え合うことを通して、相手の気持ちを分かろうとしたり、相手の立場になって考えたりという、お互いが相手を思いやる心を育てるとともに、家族や教師に手助けしてもらうことなく、自分たちで考え・行動し、自分たちの力で壁を乗り越えていく自主性を育てる。
- 高齢者との交流に関わる体験活動
  - ・ 宿泊体験活動を通して培った「思いやりの心」を学校の中だけでなく、多くの人々に広げていく。高齢者や障害のある人々と関わるなど福祉を通して思いやりの心をさらに大きくする。
- 社会奉仕に関わる体験活動
  - ・ 思いやりの心を人だけでなく、自然にも目を向け、身近な環境問題から世界的・地球的環境問題に発展させる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- わたしたちの宿泊学習  
(総合的な学習の時間8単位時間)
- チャレンジ宿泊学習  
(遠足・集団宿泊的行事18単位時間)
- わたしたちの宿泊学習Ⅱ  
(総合的な学習の時間4単位時間)
- ふれあいいっぱいⅠ  
(総合的な学習の時間4単位時間)
- ふれあいいっぱいⅡ  
(総合的な学習の時間4単位時間)
- 学校のまわりをきれいにしよう  
(総合的な学習の時間4単位時間)

## 1 活動に関する学校の全体計画

### ○ 活動のねらい

宿泊を伴う共同生活をおくる体験で、友達同士が力を合わせ、支え合うことを通して、相手の気持ちをわかろうとしたり、相手の立場になって考えたりという、お互いが相手を思いやる心を育てていきたい。また、家族や教師に手助けしてもらわずに、自分たちで考え、行動し、自分たちの力で壁を乗り越えていく自主性もあわせて育てたい。

そして、宿泊体験活動を通して培った「思いやりの心」を学校の中だけでなく、多くの人々に広げていく。高齢者や障害のある人々と関わるなど福祉を通して思いやりの心をさらに大きくしていく。また、その心を人だけでなく、自然にも目を向け、身近な環境問題から世界的・地球的環境問題に発展させていきたい。

このような体験活動を通して、「思いやりの心」を育てることが、豊かな人間性や社会性を育むことになると思われる。

### ○ 全体の指導計画

主な活動		対象学年： 5年	年間総時間数： 42時間
実施学年	実施する体験活動の概要	予定日時・期間 (単位時間数)	教育課程上の位置付け
5年	「わたしたちの宿泊学習Ⅰ」 主体的に宿泊学習の計画をしたり、自分の成長をまとめたりすることにより、見通しをもち協力する態度を身に付けさせる。	5月下旬 (8時間)	総合的な学習の時間
5年	「チャレンジ宿泊学習」 友達と力を合わせて活動することを通して互いに思いやる心を育てるとともに、自分たちで考え、判断し、行動できる主体性を養う。	6月6日 ～8日 (18時間)	学校行事
5年	「わたしたちの宿泊学習Ⅱ」 3日間の宿泊学習で体験したことや思い出を自分なりの方法でまとめる。	6月中旬 (4時間)	総合的な学習の時間
5年	「ふれあい いっぱいⅠ」 高齢者と触れ合う体験を通して、高齢者とのかわり方を身に付けさせるとともに高齢者への思いやりの心を育ませる。	7月上旬 (4時間)	総合的な学習の時間
5年	「ふれあい いっぱいⅡ」 眼や耳の不自由な人との関わり方について、体験を通して学ばせ、優しく相手を思いやる気持ちを育てる。	10月中旬 (4時間)	総合的な学習の時間
5年	「学校のまわりをきれいにしよう」 落ち葉を掃いたり、ごみを拾ったりする活動を通して、地域の人々と触れ合い、地域を愛する心を育てる。	12月上旬 (4時間)	総合的な学習の時間

## 2 活動の実際

### ○ 「わたしたちの宿泊学習Ⅰ」事前指導

- ・宿泊学習の班をつくり、自分の役割を決定する。
- ・旗の掲揚や調理体験など宿泊学習の生活の流れに沿った動きを練習する。
- ・スタントの例を知り、各班でスタントの練習をする。

### ○ 「チャレンジ宿泊学習」活動の展開

活動場所：山口徳地青少年自然の家（山口県山口市徳地）

自然の家の5つの方針「自然や自然の美に感動する心など柔らかな感性」、「生命を大切に  
する心」、「他人を思いやる心、自己抑制力、公正さを重んじる心」、「我慢する心（耐性）、  
自立心」、「物事を着実にやり抜く強い意志、主体性」が、本校・本事業のねらいに即し、大  
自然に恵まれ大規模校であっても安全にのびのび活動できる施設である。

#### 【一日目】

- ・広大な山口徳地青少年自然の家のコースをいっぱいに使ったスコアオリエンテーリングを少人数編成で実施する。
- ・満天の星空の下、県下の望遠鏡を使い土星の輪などの天体観察を実施する。



#### 【二日目】

- ・自分たちの手で生地から作りドラム缶で焼くピザ作りを行う。
- ・130人余がトーチ棒に火を灯し、キャンプファイヤーを実施する。



#### 【三日目】

- ・宿泊学習の思いを込め、杉板の美しい木目を生かしながら、焼き板細工を実施する。

### ○ 「わたしたちの宿泊学習Ⅱ」事後指導

- ・作文や絵画にまとめ、発表する。日常生活や学校生活に生かせるものを話し合う。

### ○ 「ふれあい いっぱいⅠ」

- ・疑似体験器具や車椅子を使った体験活動をする。
- ・介護老人保健施設「青海荘」を訪問し、交流活動をする。



### ○ 「ふれあい いっぱいⅡ」

- ・ブラインドウォークや点字に触れる経験をし、目の不自由な人との関わりについて学ぶ。
- ・社会福祉協議会の方を招き、眼や耳の不自由な人との関わり方について学ぶ。

### ○ 「学校のまわりをきれいにしよう」

- ・11月末、学校周辺及び近隣公園の街路樹（落ち葉）を掃く活動を行う。

## 3 体験活動の実施体制

### (1) 学校支援委員会

#### ① 学校支援委員会の構成

勤務先又は機関・団体名	職名	備考
山の田小学校後援会	会長	
山の田西町自治会	会長	
	学校評議員	学識経験者
山の田小学校 PTA	会長	
山の田小学校	校長	
山の田小学校	教頭	
山の田小学校	教務主任	
山の田小学校	5 学年主任	
山の田小学校	体験活動担当	

② 学校支援委員会の主な活動予定について

- ・ 定期的に会合をもち、支援方法について協議する。
- ・ 体験活動を行う際、保護者や地域の協力を得られるように事前に働きかける。

(2) 配慮事項等

① 学校を挙げて実施する際の体制整備について（特に留意する点等）

- ・ 該当学年だけにとどまらず、専科担当教諭等を中心に全校体制で協力・援助する。また経過や成果について公開し、他の学年にも波及するように努める。
- ・ なお、詳細な計画を立てる際には、関係する担当の主任や係とも連携し、よりよい体験活動を仕組めるようにする。

② 保護者理解を得るための取組について

- ・ 学校から本事業に関する体験活動について周知徹底するとともに、学校支援委員会を中心に PTA や地域・関係団体にも働きかけ協力を求めていく。

③ 宿泊体験を実施する際の受け入れ地域・団体・関係するボランティア、指導員との連携・協力体制づくりについて

- ・ 事前に使用したり訪問したりする施設と連絡をとり、体験活動の趣旨やねらい等を十分理解していただく。その上で最も適した体験ができるように計画を立てる。そのために必要な場合は、事前に施設等を訪問し、関係者との連携を密にする。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

(1) 児童の作文、アンケート及び宿泊学習発表会等による評価

天体観察やキャンプファイヤーの感動とオリエンテーリングでの充実感を来年度に生かすとともに、体験活動のよさを保護者に知ってもらう。

(2) 全校体制により関わった職員による反省会

- トーチの炎の危険性と燃え尽きによる不満を組別分火により解消する。
- ピザ作りの片づけ・点検による時間のロスの解消を図る。

5 活動の成果と課題

○ 現状における成果や課題、今後に向けての改善点等

- ・ 自分たちで事前に試行したり役割を分担したりして学校生活に生かせるようになり、グループ活動が活発になり自主的な行動が見られるようになった。
- ・ 施設や道具、人材、構成メンバーの変化による微調整、連携の強化が必要である。